

みんなで生き方を考えよう！

文責：道徳主任

道徳教育だより 11月号

上赤 義人



今後もよりよい道徳の時間を求めて

11月8日（木）に、道徳の校内公開授業を行いました。1年2組と2年4組のそれぞれの担任である市川教諭と吉田教諭が、子どもたちに道徳的な心情と態度などの道徳性を養うことを目的として行いました。子どもたちは、真剣な授業態度で、道徳的価値とそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深められたようです。私たちは、今後もよりよい道徳の授業を求めて、教師一人一人が授業力を向上させていきます。その成果は、来年の2月6日（水）に公開授業として保護者の方々にもお見せできると思います。

やっぱりチームワークというのは、大事なものなんだなと思いました。でもチームワークは、他に友だちがいなくてできないものだと思います。時には、嫌なこととかもあるかもしれないけど、かげでココロソしたりするんじゃないかと、勇気をもって話し合っていたいです。一人一人の友だちを大切に、これからも みんなとチームワークをつくっていききたいです。

生徒の授業後の感想



こんな授業をしています

「いき」な江戸くさ

中学校の道徳の時間（＝道徳の授業）では、24の内容項目を学習しています。ここでは、その内容項目のひとつである「礼儀」について、江戸時代に商人のあいだで使われていた「江戸くさ」の考え方を通して、礼儀の意義（礼儀の心）を考えさせる授業を紹介します。

①身の回りの礼儀について考える。

◆マナーのない行動について発表しよう。

②資料『いき』な江戸くさを読み、考える。

◆あいさつなどの礼儀はなぜ必要なのだろうか。

◆実際に「江戸くさ」を行ってみよう。

◆「江戸くさ」のもつ考え方はどんなことだろう。

③時と場に応じた適切な言動がとれるようになるために、大切なことは何かを考える。

◆礼儀という「形」とその根底にある「心」の存在について考えよう。

④礼儀の意義について再考する。

◆礼儀により、気持ちよい生活を送ることができること、礼儀は生きるための知恵であることを確認する。

三脱の教え

「江戸くさ」では、初対面の人に職業や学歴、年齢の3つを聞いてはならないとしました。このような情報や先入観により、人間をフィルターにかけて見えてしまい、その人の本質を見損なってしまうからです。

おはようございます

自分の身分や年齢が高くても低くても、「おはようございます」と言われたら「おはようございます」と互角に答えるべきとしています。どのような人に対しても失礼にならないものの言い方が「しつけられているのぞ」。

傘かしげ

雨や雪の日に、相手も自分も傘を外側に傾けて、すっとすれ違うものです。互いの身体に雨や雪のしずくがかからないようにするためのだけでなく、破れやすい番傘をぶつからないようにするためでもありました。

うかつあまり

人混みの中で、つい足を踏まれた時は、足を踏んでしまった人はもちろん、踏まれた人も「ごめん、うかつでした」と、さつとあやまるのがよいとされました。これにより、互いの関係がけわしいものにならず、穏やかな関係が保たれます。

